

事務事業名	病児・病後児保育事業				担当	健康福祉部 保育課 保育係				
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり				増補版施策名	II-5 病児・病後児保育の充実			
施策名	2	子育て支援の充実				■ 実施計画上の主要事業				
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 真岡市子ども・子育て支援事業計画 真岡市男女共同参画社会づくり計画					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 19 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
法令根拠	真岡市乳幼児健康支援一時預かり事業実施要綱									
予算科目	1.一般会計		3.民生費		児童福祉費		保育所費			
事業概要	病気の回復期や病気の回復期に至らない児童を預かる事業 【病後児保育事業】西真岡第二保育園で実施 児童が病気の「回復期」で、かつ、集団保育が困難な期間において、当該児童を病院・診療所、保育所等に付設された専用スペース又は本事業のための専用施設で一時的に保育する事業 【病児保育事業】 児童が病気の「回復期に至らない場合」で、かつ、当面の症状の急変が認められない場合において、当該児童を病院・診療所、保育所等に付設された専用スペース又は本事業のための専用施設で一時的に保育する事業									

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 29年度実績 【病後児保育事業】 対象：市内に住所を有する就学前児童 保育時間：午前8時から午後6時まで 利用料金：生活保護世帯 無料、市民税非課税世帯：日額 500円、その他の世帯：2,000円 【病児保育事業】 対象：生後3か月から小学校6年生までの子ども 保育時間：平日午前8時から午後6時（土曜日午前8時から午後1時まで） 利用料金：2,500円（生活保護世帯・市民税非課税世帯は無料） 30年度計画 【病後児保育事業】H29年度と同じ。 【病児保育事業】 広域利用は、平成29年度と同様に「済生会宇都宮病院」で実施 市内は、平成30年度に病児保育施設を整備し開設を予定。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア 病後児保育実施施設	ヶ所	1	1	1	1	1
	イ 病後児保育延べ利用者数	人	52	48	45	53	60
	ウ 病児保育事業実施施設	ヶ所				1	2
	エ 病児保育延べ利用者数	人				9	60
	オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 就学前児童及び小学校就学児童	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア 就学前児童数（4月1日現在）	人	4,405	4,396	4,282	4,291	4,146
	イ 小学校児童生徒数（4月1日現在）	人				4,520	4,472
	ウ						
	エ						
	オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 地域における子育ての支援をし、多様な保育サービスを充実させる。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア 病後児保育実施施設	ヶ所	1	1	1	1	1
	イ 病児保育実施施設	ヶ所				1	2
	ウ						
	エ						
	オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 子育て世代が安心して働けるように、子育て支援の充実を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア 保育ニーズの充実が図られたと感じた割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						

(2) 総事業費の推移			単位	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	802	802	802	1,408	9,732
		県支出金	千円	802	802	802	1,408	9,732	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	4,796	4,796	4,796	3,674	12,010	
		事業費計 (A)	千円	6,400	6,400	6,400	6,490	31,474	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	20	20	40	40	70	
		人件費計 (B)	千円	84	84	166	166	291	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	6,484	6,484	6,566	6,656	31,765	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。	【病後児保育事業】 開始時期 平成19年度から 子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成及び資質の向上に寄与することを目的として実施。 【病児保育事業】 開始時期 平成29年度から 子育て世代への支援を図り、多様な保育ニーズに対応する目的として実施。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成27年4月施行の子ども子育て支援新制度により質の改善が求められ、補助内容についても質の向上につながる機能を評価し、基本補助単価の改善等が行われた。 平成29年4月より済生会宇都宮病院「おはな保育園」と広域利用提携を実施。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	既存の病後児保育事業に加え、病児保育事業についても済生会宇都宮病院だけでなく、市内に病児保育施設の設置が求められている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 子育て支援の充実、市の政策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 国の補助事業に基づく子育て支援事業であり、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 市内の病児・病後児を対象としており、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 国の補助事業に基づく事業であり、向上の余地がない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 廃止・休止をすると病児・病後児に対する利便性が著しく低下し、影響がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 国の補助基準を満たした事業であり、質の向上に影響するため、削減余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費であり、削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 利用世帯の所得状況により、利用料を徴収をしており、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							
(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							